

スズキ株式会社 アニュアルレポート 2012年
(第146期：2011年4月1日 - 2012年3月31日)
日本語版(抜粋)

本PDFファイルは投資家の皆様の便宜のため、英文版の「ANNUAL REPORT 2012」の会社概況説明ページを和訳したものです。
財務諸表につきましては、英文版の「ANNUAL REPORT 2012」の20ページ
“FINANCIAL SECTION”以降をご参照くださいますようお願い致します。



トップメッセージ

アニュアルレポート2012をお手許にお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当期の経営成績

当期の当社グループを取り巻く経営環境は、欧州の金融不安が世界景気に悪影響を与えるなど、不透明な状況が続いています。国内においても、東日本大震災の影響による経済活動の停滞からは持ち直しているものの、海外経済の減速、円高の長期化、さらには原油価格の上昇等、厳しい状況にあります。

このような状況下、当期は、国内では東日本大震災の影響による前半の販売落込みを後半で挽回し、国内売上高としては過去最高となる9,868億円（前期比5.3%増）の売上を達成することができました。一方、海外では円高の影響に加え、インドでの四輪車の販売減少などにより1兆5,254億円と前期に比べ1,454億円（8.7%）減少しました。この結果、連結売上高は2兆5,122億円と前期に比べ960億円（3.7%）の減少となりました。

連結利益の面では、営業利益は売上減少や為替影響などによる減益要因を、原価低減、諸経費削減、減価償却費の減などによる増益要因で吸収し、1,193億円と前期に比べ124億円（11.6%）の増加、経常利益は1,306億円と前期に比べ81億円（6.6%）の増加、当期純利益は法人税等の税率引下げに伴う繰延税金資産の取崩しによる税金費用の増加を吸収し539億円と前期に比べ87億円（19.3%）の増加となりました。

なお、経営環境は引き続き厳しい見通しではありますが、当期の年間配当金は1株につき15円、期末配当金は8円（前年期末配当金7円）とさせていただきます。この結果、年間配当金は前期に比べ2円の増配となります。

対処すべき課題

当社グループは、成長戦略を進める中で、基本方針として「生き残るために、我流をすてて、基本に忠実に行動しよう」を掲げ、あらゆる分野での見直しを行ない、経営体質の強化に努めてまいりました。

その結果、数年来の欧米市況の悪化や円高急進、国内外の災害等の中でも全体としては安定した経営、着実な回復を進めることができました。

しかしながら、現状は、円高、欧州金融不安、環境問題、災害リスクなど多くの対処すべき課題があります。

当社グループは、これらの課題を乗り越えるために、「知恵を出し、人一倍の努力と行動で現状を打破しよう」を新たな基本方針として、全社一丸となって取り組んでまいります。

具体的な取組みとしては、昨年4月に設置した「経営企画委員会」が中心となって、当社グループの重要経営課題の集約、迅速な方針決定と実施の推進・フォローをしています。

各地域・各製品での競争激化に対しては、国内・海外ともに販売網の拡充・強化と市場に密着した商品づくり、エンジン・パワートレイン・プラットフォームの統合化による開発の効率化、コストダウンを進めてまいります。

特に、商品づくりにおいては、当社グループは、お客様に価値ある製品を提供することを使命としてきました。ブランドスローガン“Way of life!”は、「生活をわくわくさせるブランドでありたい。」という思いを込めての命名です。この“Way of life!”を実現するための商品づくりの3要素「走る喜び」、「使う楽しみ」、「持つ幸せ」を満足させる商品を開発してまいります。

環境問題については、当社グループは国内の軽自動車をはじめ、インドやアジアなどで多くの燃

費の優れた小型車を提供してまいりました。これら小型車の普及こそ環境問題に貢献できるものと考えております。今後も引き続き、「軽の燃費 No.1」の維持など、小型車の燃費改善に取り組んでまいります。具体的な成果としまして、当期はガソリン車でトップの燃費となる「アルト エコ」、軽ワゴン車トップの燃費となる「MRワゴン エコ」を発売しました。

さらに、電動化技術にも取り組んでおります。既に浜松市などで「スイフト レンジ・エクステンダー」¹、「バーグマン フューエルセル スクーター」²、「e-Let's」³などの実証実験を重ねてまいりました。「e-Let's」については、当期より販売も開始しております。

今後も、電気自動車、ハイブリッド車、ディーゼルエンジン車、燃料電池車など更なる低燃費・低公害化技術の開発に取り組んでまいります。

二輪車事業につきましては、企画、技術、営業が一体となり、市場要望にあった商品を早く開発し、二輪車業界の中で存在感ある地位を取り返すべく事業活動を展開してまいります。特に、今後の更なる成長が望めるアジア地域を中心とした小型二輪車事業を強化するとともに、アセアン標準車の横展開、エンジン数の削減・統合化によるコスト削減、開発の効率化を進めてまいります。さらに中・大型車につきましても、商品力の強化をはかってまいります。

円高への対応としましては、部品の海外調達、コストダウン活動や一層の品質・生産性向上などを推進していますが、特にアジアなどでは自動車需要が増加しており、内作化率の向上、グローバル購買の拡充、現地での生産能力の強化に努めてまいります。

当社グループは従来より東海・東南海地震を想定した様々な予防策を講じてきましたが、東日本大震災の発生を受け、津波被害が想定される静岡県磐田市竜洋地区拠点の再配置を決定いたしました。さらに海外も含めた生産・研究拠点の分散を実施することで、災害に対する対応力を高めてまいります。

更に、「小さなクルマ 大きな未来」をスローガンに、お客様の求める「小さなクルマづくり」、「地球環境にやさしい製品づくり」に邁進するとともに、生産をはじめ組織・設備・部品・環境などあらゆる面で「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、ムダのない効率的な健全経営に取り組んでまいります。

また、役員及び従業員は、法令、社会規範、社内規則等を遵守し、公正かつ誠実に行動してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長

鈴木 修

代表取締役副社長

田村 実

本田 治

鈴木 俊宏

原山 保人

四輪事業

スズキの世界生産と世界販売台数

2011年度の四輪海外生産台数は1,782千台、前年比94.6%と、前年を下回りました。日本を含めた世界生産でも2,802千台、前年比97.4%と減少しました。また四輪海外販売台数は、1,964千台、前年比95.6%と減少、日本を含めた世界販売台数も2,560千台、前年比96.9%と減少しました。

国内市場

1. 全体市場の概況

2011年度の国内四輪車総販売は、4,753千台(前年比103%)と、2年ぶりに前年を上回りました。上半期は、東日本大震災に起因する車両の供給不足が影響して、24%もの大幅な減少となりましたが、下半期は、12月にエコカー補助金制度が復活して市場が活性化されたことにより一転して37%の大幅な増加となり、通期で対前年増となりました。

2. スズキの販売状況

スズキの2011年度国内総販売台数は、596千台(前年比101%)と6年ぶりに前年を上回りました。前半は東日本大震災の影響により大きく減少しましたが、後半の巻き返して対前年プラスを確保することができました。

軽自動車は、516千台(99%)と僅かながら前年を下回りました。下半期はエコカー補助金復活が追い風となって、好調な販売が続きましたが、前半の遅れを取り戻すには至りませんでした。登録車は、80千台(119%)と2年連続で前年を上回りました。発売後2年目を迎えるソリオが、引き続き好調な販売を維持して、スズキ登録車販売を下支えしました。

3. 2011年度のトピック

- ・2011年11月、小型乗用車「ソリオ」に特別仕様車「BLACK&WHITE」を追加しました。コンパクトなボディながら広い室内空間に加え、若者向けの内外装が好評を博し、投入後は最量販グレードとなって好調な販売の立役者となりました。
- ・2011年12月に、軽乗用車「新型アルト エコ」を発売しました。スズキの低燃費化技術を結集し、ハイブリッド車を除くガソリン車ではトップの低燃費30.2km/L(JC08モード)を実現しました。
- ・2011年12月に、小型乗用車「新型スイフトスポーツ」を発売しました。高い動力性能と、軽量化した車体に剛性を高めたサスペンションを採用し、気持ちの良い走りとお操る楽しさをさらに向上させました。

- ・軽乗用車「ワゴンR」は、2011年度軽自動車車名別届出台数において、9年連続でNo.1となりました。

海外市場

1. 全体市場の概況

2011年度の海外四輪販売台数は、インド市場では自動車ローンの金利引き上げ、ガソリン価格高騰が影響し、全体では2,629千台（前期比104.3%）と小幅の伸びに留まりました。中国市場は18,339千台（前期比100%）とほぼ横ばい、アセアン主要諸国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアの5カ国）においても2,600千台（前年比100%）とほぼ横ばいとなりました。北米市場は14,798千台（前年比108%）となりました。欧州市場（EU+EFTA）はユーロ圏内緊縮財政などにより133,104千台（前年比97%）と前年を下回りました。

2. スズキの販売状況

2011年度のスズキの海外四輪販売台数は、1,964千台（前期比96%）と前年を下回りました。スズキの主な販売国において、インドではディーゼルの供給体制などの影響により1,006千台となり前年を下回りました。中国市場では296千台（前期比102%）となり、年度ベースではスズキとしては過去最高の販売台数となりました。アセアン主要諸国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアの5カ国）120千台（前年比123%）、パキスタン99千台（前年比120%）と前年を上回りました。一方、欧州（EU+EFTA）は169千台（前年比88%）、北米は32千台（前年比96%）と前年割れとなりました。

3. 2011年度のトピック

- ・2012年3月に世界戦略車としての「スイフト」の世界累計販売台数が250万台を達成し、その内、海外販売については2005年の発売開始以来、累計で約220万台を販売。
- ・インドのマルチ・スズキ社が2012年2月に国内累計販売1,000万台を達成。今後のインド市場拡大を見込み、グジャラート州に四輪工場の建設などを見据え土地を購入することを決定。
- ・生産面ではアセアン地域に於いても四輪車・二輪車が拡大するインドネシア市場で四輪車エンジン工場建設のための用地を取得。またベトナムにて四輪車の新工場建設を決定。
- ・新商品では、タイで新型「スイフト」の生産・販売を開始。またインドではスイフトセダン「スイフト ディザイア」を全面改良して発売。

二輪事業

スズキの世界生産台数と世界販売台数

2011 年度の二輪海外生産台数（ATV 含む）は 2,400 千台、前年比 94.1%と前年を下回りました。日本を含めた世界生産台数でも 2,574 千台、前年比 94.1%と減少しました。また、二輪海外販売台数（ATV 含む）は、2,509 千台、前年比 95.9%、日本を含めた世界販売台数も 2,588 千台、前年比 96.0%と減少しました。

国内市場

1. 全体市場の概況

2011 年度における国内 4 メーカーの販売出荷台数は、原付一種、軽二輪を中心に底打ち感が見受けられ、総台数は 408 千台(前年比 107%)と前年を上回りました。

内訳を見ると、125cm³以下の原付車については、50cm³以下の原付一種は 257 千台(同 110%)、51～125cm³の原付二種は 95 千台(同 102%)となり、原付車合計では、352 千台(同 107%)と前年を上回りました。

126cm³以上の大型車については、126～250cm³の軽二輪は 33 千台(同 125%)、251cm³以上の小型二輪は 22 千台(同 88%)となり、大型車合計では、55 千台(同 107%)と前年を上回りました。

2. スズキの販売状況

2011 年度におけるスズキの販売出荷台数は、原付二種、大型車の販売が厳しい中で、原付一種の販売が下支えし、総台数は 75.0 千台(前年比 103%)と前年を上回りました。

内訳を見ると、125cm³以下の原付車については、50cm³以下の原付一種は 51.1 千台(同 112%)、51～125cm³の原付二種は 16.5 千台(同 79%)となり、原付車合計では 67.7 千台(同 102%)と前年を上回りました。

126cm³以上の大型車については、126～250cm³の軽二輪は 4.7 千台(同 136%)、251cm³以上の小型二輪は 2.7 千台(同 84%)となり、大型車合計では、7.4 千台(同 111%)と前年を上回りました。

3. 2011 年度のトピック

- ・震災や昨今の経済不況により、原付一種を中心にバイクの利便性、経済性が見直され、市場の需要に底打ち感がでてきました。スズキにおいてもレッツ 4 を中心に原付一種の販売が伸び、総台数では前年を上回ることができました。
- ・2012 年 1 月にはスズキ初の電動スクーター「e-Let's」を発売しました。原付一種スクーターの扱いやすさや使い勝手はそのままに、家庭で充電できる着脱式バッテリーを採用して使い勝

手を高めました。

海外市場

1．全体市場の概況

2011年度の海外二輪販売台数は、欧米では円高や欧州の景気後退により市場の低迷が長期化し、欧州市場が957千台（前年比92%）、北米市場が776千台（同97%）と前年割れとなりました。一方、アジアでは、中国市場が排ガス規制対応などにより需要が減退し13,614千台（同89%）と前年割れとなりましたが、アセアン市場（主要6ヶ国）は14,711千台（同107%）と前年を上回り、インド市場は13,434千台（同114%）と大きく拡大しました。

2．スズキの販売状況

2011年度のスズキの海外二輪販売台数は、欧州で66千台（前年比79%）と前年割れとなりましたが、アメリカでは42千台（同99%）となりました。一方、アジアでは、中国で排ガス規制対応などが影響し908千台（同85%）と前年割れとなりました。アセアン（主要6ヶ国）ではインドネシアで減少するも、タイ、ベトナムなどで増加し、768千台（同101%）と前年を上回りました。インドではスクーターを中心に販売は好調に推移し、339千台（同120%）と前年を大幅に上回りました。

3．2011年度のトピック

欧米市場に2012年新機種として「GSX-R1000」、「V-Strom 650 ABS」を投入しました。又、アジアでは、中国市場にバックボーン「GW250」、アセアン市場にスクーター「nex」、インド市場にはスクーター「Swish 125」を投入し、拡販を図っています。

2011年のレース活動において、世界耐久選手権で「GSX-R」が2年連続チャンピオンを獲得するなど、欧米の主要量産車レースで活躍しました。スズキはMotoGPやモトクロス世界選手権においても健闘しました。

マリン製品

2011 年度の当社の船外機出荷は、国内については、東北向けの特需により出荷台数が大きく伸びました。

輸出については、2011 年 10 月に発生したタイの洪水の影響により、ほぼ前年並みの出荷台数にとどまりました。

現在のスズキ 4 ストローク船外機は、最小出力モデル DF2 (1.49kW、2 馬力) から最大出力モデルの DF300 (220.7kW、300 馬力) までのラインナップとなっています。

2012 年 2 月に開催されたアメリカのマイアミ国際ボートショーでは、船外機として世界で初めてプロペラの正逆回転を統合した DF300AP が、N M M A (米国マリン工業会) 技術革新賞を受賞しました。

環境

スズキは、四輪車製品・二輪車製品・特機製品等の総合メーカーとして、製品の開発から廃棄に至るまでの全ての段階で環境に配慮した取組みを行っています。

『製品開発』の分野では、燃費の向上、排出ガスの低減、クリーンエネルギー自動車の開発、騒音の低減など、『生産活動』の分野では、環境リスクの低減、省エネルギー、代替エネルギーの推進などに取り組んでいます。『物流』の分野では、輸送の効率化・省エネルギー化、3Rの推進等の取組み、『市場』の分野では、販売店の環境管理の推進、使用済み製品の適正処理等に取り組んでいます。

製品関連以外の取組みとして、オフィスの省エネルギーの推進・グリーン購入の促進、従業員への環境教育、地域への社会貢献活動の推進等の環境活動を推進しています。

2011年度のトピックス

- ・「スズキ環境・社会レポート 2011」を発行しました。スズキは1999年度から毎年度発行しており、スズキの環境への取組みを網羅して掲載しています。
- ・2011年5月から、電動スクーター「e-Let's」燃料電池スクーターおよび「バークマン フューエルセル スクーター」を北九州総合エネルギーステーション実証実験及び北九州スマートコミュニティ創業事業に提供しました。
- ・2011年9月以降の環境に配慮した技術に対し環境シンボルを加えたエンブレムを貼り付けることとしました。
- ・2011年12月に、ガソリン車トップ¹の低燃費である30.2km/Lを実現した軽自動車「アルト エコ」を発売しました。
- ・2012年1月に、家庭で充電できる着脱式バッテリーを採用して使い勝手を高めた原付一種の電動スクーター「e-Let's」を発売いたしました。
- ・2012年2月に、スズキ株式会社は、英国の燃料電池システムの開発企業であるインテリジェント・エナジー社（Intelligent Energy Ltd 以下IE社）を傘下に持つ、インテリジェント・エナジー・ホールディングス社（Intelligent Energy Holdings PLC 以下IEH社）と燃料電池システムを開発・製造する合弁会社「株式会社SMILE FCシステム（以下SMILE FC）」を設立することといたしました。

1 JC08モード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。ハイブリッド車を除く。2011年11月現在、スズキ調べ。

他メーカーとの事業協力関係について

スズキは、今日まで多くの自動車メーカーと事業協力を進めてきています。

日産自動車とは、国内外で車両の相互 OEM 供給を行っています。マツダと三菱自動車には、日本市場で車両を OEM 供給しています。

欧州市場では、フィアットとオペルに車両を OEM 供給しています。またフィアットやルノーからディーゼルエンジンを受給し、スズキの車両に搭載しています。フィアットからはさらにディーゼルエンジンの技術を導入しインドで生産しています。

今後も、他の自動車メーカーと、お互いに独立したパートナーとして双方の利益となる事業協力を進めることにより、スズキの経営資源の有効活用と、売上及び利益の増加につなげる所存です。

トピックス

(4月) 経営企画室を設置

4月1日付けの組織改定において、当社グループの重要経営課題の集約や懸案事項を討議する「経営企画委員会」の審議を経つつ基本方針を調整・立案する経営企画室を新設。総合的かつ横断的に重要経営課題に関し迅速な経営上の課題抽出・意思決定をはかるための体制を強化しました。当社会長に加え、6月の株主総会後の取締役会において任命された4名の副社長を中心に、当社グループ一丸となって経営体質の強化に努めてまいります。

(7月) フィリピンに二輪車工場を建設

年々堅調に拡大しているフィリピンの二輪車市場に対応するため、マニラ郊外のカーメルレイ工業団地内に年間約20万台の生産能力を持つ新工場の建設を決定。7月に新工場建設地にて鍬入れ式を行ないました。新工場の投資額は約21億円で、2012年6月に生産を開始しています。

(7月) 二輪車事業の拠点再編を決定

東日本大震災の教訓を基に、当社拠点が集中する東海地区で想定されている東海地震発生時のリスク分散化として、国内の二輪車事業の拠点を再編するとともに、開発から生産までを浜松市内に集約することで効率を向上させていきます。このため、静岡県と浜松市が開発した、静岡県浜松市都田地区工業団地に、二輪車及び次世代環境車の開発、設計を行なう「都田技術センター(仮称)」、二輪車のエンジンの組み立てを行なう「都田工場(仮称)」を新設することを決定しました。

(8月) インドで新型「スイフト」を発売

インドで新型「スイフト」を発売しました。新型の1.2Lガソリンエンジンと1.3Lディーゼルエンジン搭載車を設定し、インドの道路事情を考慮した専用タイヤとホイール及びサスペンションを採用することで、乗り心地とハンドリング性能を両立させました。また、定員乗車が多いインド向けに後席空間を広くするなど、市場要望に応えた専用設計を取り入れています。「スイフト」はインドの乗用車市場で2011年度には15万台以上が販売され、このクラスではアルトに次ぐマーケットリーダーになっています。また、2012年2月には、セダンタイプの「スイフト ディザイア」も追加しています。

(10月) おかげさまで、軽トラック「キャリイ」誕生50年

1961年に販売を開始して以来、扱いやすいエンジン、広く低い荷台、頑丈な車体といった特長を備え、日本の道路事情に即した機動性や、お求めやすい価格・経済性といった点から軽商用車の市場で確固たる地位を築いてきた「キャリイ」が誕生50年を迎え、誕生50年記念車「キャリイ KC リミテッド」を発売しました。高い経済性と耐久性、使いやすさという基本コンセプトを变えることなく、身近な働くクルマとして進化を続け、個人商店や町工場、農家等での毎日の仕事車として長きにわたりご愛用をいただき、2010年には累計販売台数400万台¹を達成しています。

1 2010年1月現在、スズキ調べ。

(11月) ベトナムに四輪車新工場を建設

ベトナムの四輪車市場拡大に対応するため、ベトナムスズキ社はロン・ビン工業団地内の二輪車新工場に隣接した敷地に新工場を建設、移転することを決定しました。新工場は2013年中の稼働を予定しており、年間生産能力は初年度5,000台で、その後拡張していく計画です。

(12月) 第42回東京モーターショーに出展

第42回東京モーターショー2011では、当社を代表する商品である二輪車、四輪車に加え、低燃費・低CO₂を実現した次世代グローバル・コンパクトカー「REGINA(レジーナ)」、日常生活圏移動のための2人乗り超小型モビリティ「Q-Concept(キュー・コンセプト)」など、現在求められている様々な機能、環境への配慮、新しい価値観を盛り込んだ参考出品車を展示しました。

(12月) 新型「スイフトスポーツ」を発売

「スイフトスポーツ」はスイフトシリーズの走りを象徴するモデルとして発売。高出力の1.6Lエンジンや専用トランスミッションにより高い動力性能と燃費性能を実現し、軽量化した車体に剛性を高めたサスペンションを採用することで、気持ちの良い走りとお操る楽しさをさらに向上させました。

(12月) ガソリン車トップ¹の低燃費30.2km/L²を実現「アルト エコ」を発売

軽乗用車「アルト」の機能や装備、使い勝手はそのままに、当社の低燃費化技術を結集し、省資源・低燃費を徹底的に磨き上げ、ガソリン車トップ¹の30.2km/L²を達成した「アルト エコ」

を発売しました。動力性能と燃費性能を高次元で両立させた新世代 R06A 型エンジンに、停車時に加え、停車直前の減速時からエンジンを停止する新アイドリングストップシステムを採用。あらゆる部品を見直して車体の軽量化と走行抵抗の低減を進め、アルトの標準車に対して 30%以上の燃費向上を実現しました。

- 1 JC08 モード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。ハイブリッド車を除く。2011 年 11 月現在、スズキ調べ。
- 2 燃料消費率 JC08 モード走行（国土交通省審査値）

（12月）インドネシアに新型スクーターを投入

インドネシア子会社スズキ・インドモーター・モーター社は、新型スクーター「nex(ネックス)」を発表しました。インドネシアの二輪車市場はアセアンでは最大、世界でも中国、インドに次ぐ第3位の市場規模となっており、当社は、低燃費モデルが伸長しているスクーターカテゴリーの商品力の強化と、シェア向上のための戦略モデルとして「nex」をインドネシア市場に投入しました。

（1月）着脱式バッテリー採用の電動スクーター「e-Let's」を発売

「e-Let's」は、原付一種スクーターの扱いやすさや使い勝手はそのままに、家庭で充電できる着脱式バッテリーを採用。排出ガスゼロの高い環境性能と、日常の買物や通勤などで便利に使用できる実用性を兼ね備えています。シート下に専用充電器またはスペアバッテリーを収納することができ、充電済みバッテリーと替えることで走行距離を延ばすことができます。

（1月）インドに「エルティガ」を投入

インドのモーターショーで3列シートの7人乗り乗用車「Ertiga(エルティガ)」を発表しました。インド市場において軽量、コンパクトで小排気量という「コンパクト3列シート車」という新しい市場を創造するモデルとして、スズキ車のラインナップの更なる充実をはかり、より多くのお客様のニーズに応えるべく投入しました。

（2月）燃料電池システムの合弁会社を設立

次世代環境車のひとつである燃料電池を搭載した二輪車・四輪車の開発、製造に本格的に取り組むため、英国の燃料電池システムの開発企業であるインテリジェント・エナジー社（IE社）を傘下に持つ、インテリジェント・エナジー・ホールディングス社と、燃料電池システムを開発・

製造する合弁会社「株式会社 SMILE FC システム」を設立しました。

IE 社が持つ燃料電池の開発技術に、当社の制御技術と量産技術を組み合わせて製品化を加速させていきます。

(2月) 軽ワゴントップ¹の 27.2km/L² 低燃費「MRワゴン エコ」を発売

個性的なスタイリングや広い室内空間、タッチパネルオーディオなど新感覚のデザインを採用した軽乗用車「MRワゴン」に、「アルト エコ」に採用した当社の低燃費化技術を取り入れ、軽ワゴントップ¹の 27.2km/L² 低燃費を達成した「MRワゴン エコ」を発売。燃費、走り、静粛性を大きく進化させた当社の新世代 R06A 型エンジンと副変速機構付 CVT を軽量なボディに組み合わせ、低燃費でキビキビとした走りを実現しました。

- 1 全高 1,550mm以上のハイト型 2BOX 軽自動車。JC08 モード走行燃費(国土交通省審査値)に基づく。2012年2月現在、スズキ調べ。
- 2 燃料消費率 JC08 モード走行(国土交通省審査値)

(2月) インド国内累計販売 1,000 万台を達成

マルチ・スズキ社がインド国内累計販売 1,000 万台を達成しました。1983年12月に「マルチ 800(日本名アルト)」¹、その後「オムニ(日本名エブリイ)」¹、「ワゴン R」¹、「スイフト」などの発売により順調に販売を伸ばしてきました。マルチ・スズキ社はインド自動車市場の牽引役として同市場の発展と共に成長してきました。これからもインドの皆様にも愛される商品を開発し、自動車市場の発展に貢献していきます。

(3月) タイ四輪車工場が稼働 新型「スイフト」を発売

タイ子会社スズキ・モーター・タイランド社が、タイ政府が推進しているエコカープロジェクトに適合する小型車、新型「スイフト」を発売しました。新型「スイフト」はラヨン県に建設した新工場で生産されており、タイ国内で販売するほか、近隣アセアン諸国に輸出していきます。

(3月) 全国で店頭イベント「スズキ きずなキャリイキャラバン」を開始

全国のスズキバイクショップ¹が行なう店頭イベントの支援を目的に「スズキ きずなキャリイキャラバン」を3月より開始しました。全国のスズキバイクショップを回りながら試乗会や展示会を開催するイベントで、軽トラック「キャリイ」の荷台をイベントステージに架装し、手軽にイベント開催できるように配慮したものです。昨年に続き2回目となる今回は、東日本大震災で

大きな被害を受けられた岩手・宮城・福島・茨城を対象とした「スズキ きずなキャリイキャラバン東日本復興応援」も実施しています。仮設住宅や自治体施設等に伺い、お使いの原付スクーターや当社から被災地の自治体へ提供している原付スクーターに、安心してお乗りいただけるよう出張無料点検等を行ないました。

- 1 「スズキバイクショップ」は、スズキ製品に関する質の高いサービスを提供することで、お客様のバイクライフをサポートするお店として、スズキが認定した二輪車販売店です。